

## 樹木画法の研究 (VI)

中 園 正 身

### Research in the Tree Drawing Test (VI)

Masami NAKAZONO

#### Summary

The purpose of this research introduces a new tree drawing test. The instruction of the test was "to draw two trees. First, please draw a good tree which grows rightward. Second, draw a bad tree which grows leftward." The findings of this study was the following results. (1) In the spatial schemes "the past" is the feature of the left section and "the future" is the feature of the right section regardless of the picture of the trees. (2) Many other symbolic features of right or left spaces are changeable for the shapes of trees.

#### 1. はじめに

筆者は一連の樹木画法の研究 (2002、2003a、2003b)において、倒立画の導入を提案した。大学生を対象に5組の直立画と倒立画から受ける印象をSD法で比較した結果、倒立画は、従来どおりの直立画にくらべて天(上の空間)と地(下の空間)をつなぐイメージが強くなった。したがって、倒立画は、天と地を結ぶ宗教的心性などの探求に寄与する可能性が示唆された。

さて、前研究においてすでに示唆したことであるが、樹木画において直立画や倒立画に加えて、横立樹木画がある。たとえば、横立樹木画は、善い木(左に横立)と悪い木(右に横立)の二本の木が、一枚の画用紙の中央に二本の木の根が接するように描かれている。この善い木や悪い木を描くことによっても査定に役立てられないかというのが今回の研究のねらいである。

筆者の樹木画法についての一連の研究におい

て、Koch、Kなどのオーソドックスな樹木画法からは逸脱してしまっている点を整理しておこう。すなわち、根を描くように教示法を変更したこと(1996)、倒立画を加えたこと(2002、2003a、2003)、さらに今回、横立画をも付加することである。とくに、最後の横立画は、一本でなく二本の木を描くことや善悪という価値的な言葉を使用するなど、大きくこれまでとは異なる方法である。このことを査定に導入する意味はなにか?倒立画が宗教的心性の理解に寄与するということに対比して言えば、横立画は倫理・道徳的側面の理解に役立つであろうということである。

#### 2. 目的

本研究の目的は、左右に伸びる善悪の二本の樹木画が、空間象徴論で意味付けされている左右の空間象徴の特徴とどのように関連するかを

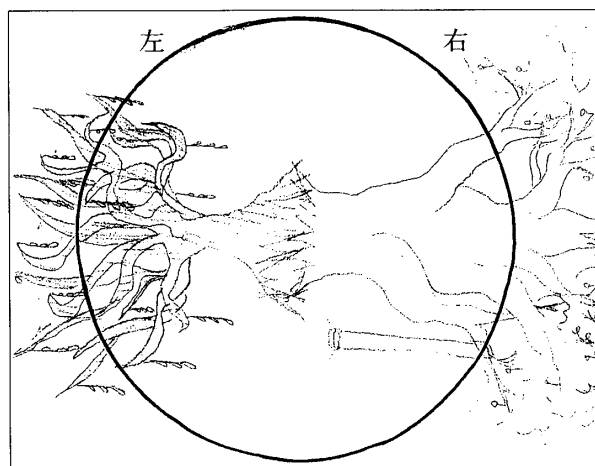
検討することである。右に横立した樹木画が善い木であるから、右の空間的特徴をもち、左に横立した樹木画が悪い木であるから、左の空間的特徴をもつなどと直線的には、とても考えにくいことである。しかし、おおまかに言って、左に成長する樹木は、負の印象が相対的に強く、右に成長する樹木は、正の印象が相対的に強いのではないかと予想される。このことを空間象徴論で検討するのが今回のねらいである。

### 3. 方法

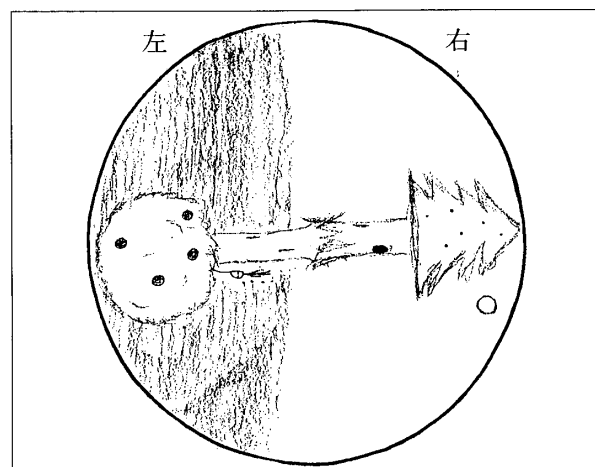
研究は次のような手順で行った。

#### (1) 横立樹木画の収集

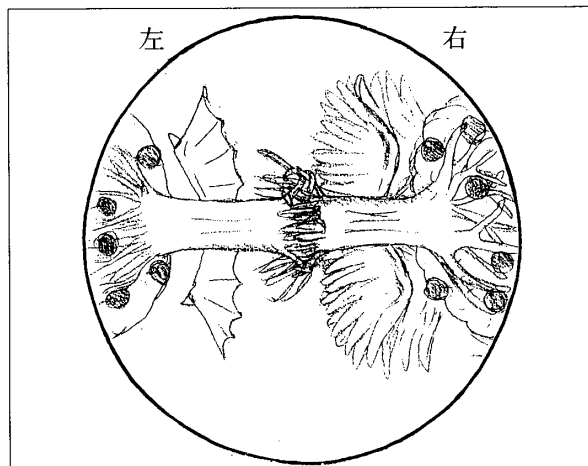
K女子大学における臨床心理学実験演習に



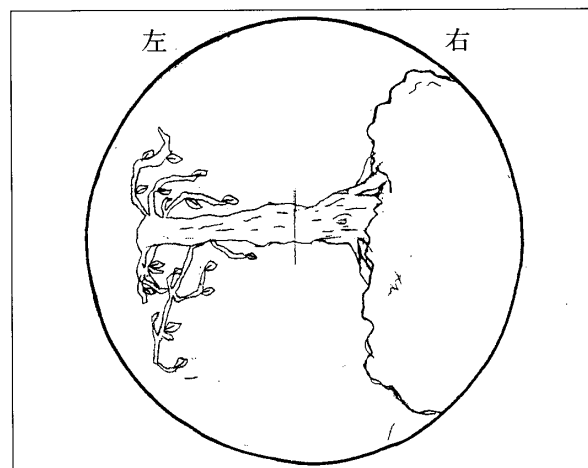
樹木画 1



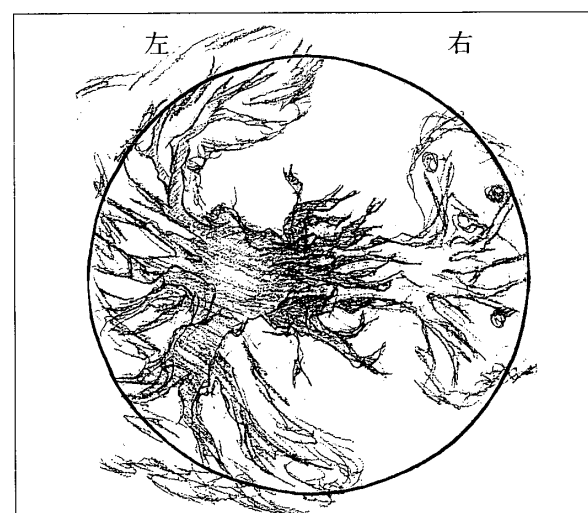
樹木画 2



樹木画 3



樹木画 4



樹木画 5

において心理査定法の学習の一環として樹木画法を取り上げた際、2年生20名のゼミ学生に協力してもらった。そのさい、まず正規の教示法(ただ、「根を含めて」という語句が付加されたが)による直立画を描いた直後に、続けて横立樹木画を描いてもらった。画用紙は、A4大であったが、画用紙いっばいに黒い円枠がなされていたものを使用した。横立樹木画において円枠法を用いたのは、善悪の木を描く課題であるために保護的な機能を有すると言われていた円枠法を用いた方が、安心して自己表現ができると考えられたからである(中井、1974)。なお、教示は次の通りであった。「これから二本の実のなる木を描いてもらいます。画用紙の中央から左右に横に伸びている木です。左側にのびる木は悪い木です。右側にのびる木は善い木です。できるだけ丁寧に描いて下さい。」

20枚の横立樹木画の中からもなるべく異なる種類の絵になるように配慮して、5枚を任意に選んだ。選ばれた5枚の横立樹木画は前ページの樹木画1から樹木画5の通りである。

#### (2) SD法による左右横立画の比較

K女子大学の臨床心理学実験演習において3年生29名のゼミ学生に協力してもらって、すでに選んであった5枚の横立樹木画を順次提示し、左右空間の特徴を示す12の形容詞語句について、4段階評定をしてもらった。調査は、集団で一斉に行った。29名の学生は、樹木画法について知識はあったが、横立樹木画なるものについてはなんの予備知識も持ち合わせていなかった。

### 4. 結果

5枚の横立樹木画において左右二本の樹木の特徴を比較した結果を示すと表1から表5のようになる。

表1は、樹木画1における左右横立樹木の特

徴を比較したものである。それによると、左横立樹木画が、右横立樹木画より特徴的であったのは、内向的、過去の2つにとどまった。統計的には10%水準で有意傾向が認められる。それに対して、右横立樹木画が左横立樹木画より特徴的であったのは、積極的、外向的、母性的、未来的、女性的の5つにのぼった。この5つは、いずれも1%水準で有意であった。

表1の結果では、左横立樹木画の特徴である内向的と過去の2つは、空間象徴論の主張にそうものである。一方、右横立樹木画の特徴である5つは、空間象徴論的には左右両方の特徴が混在している。すなわち、空間象徴的には母性的と女性的は左空間の、そして、積極的、外向的、未来的は右空間の特徴である。

表2は、樹木画2における左右横立樹木画の特徴を比較したものである。それによると、左

表1：樹木画1における左右横立樹木の特徴比較

SD項目	平均値(標準偏差)		t値	有意差
	左横立	右横立		
積極的(右)	2,03 (1,15)	2,86 (1,16)	2,767	p<0,01
内向的(左)	2,07 (1,00)	1,52 (0,87)	2,037	p<0,10
統制的(右)	2,03 (0,91)	2,17 (1,10)	0,560	ns
外向的(右)	1,97 (0,98)	2,86 (1,06)	3,240	p<0,01
男性的(右)	2,21 (1,05)	2,14 (1,03)	0,246	ns
母性的(左)	1,72 (1,00)	2,41 (1,15)	2,285	p<0,01
未来的(右)	1,62 (0,73)	2,52 (1,15)	10,679	p<0,01
父性的(右)	1,90 (1,05)	2,10 (1,08)	0,758	ns
受動的(左)	1,97 (0,91)	1,90 (0,94)	0,304	ns
過去の(左)	2,17 (1,20)	1,59 (0,87)	2,042	p<0,10
受容的(左)	2,21 (1,11)	2,31 (1,00)	0,365	ns
女性的(左)	1,79 (0,94)	2,41 (1,09)	4,313	p<0,01

表 2 : 樹木画 2 における左右横立樹木の特徴比較

SD 項目	平均値(標準偏差)		t 値	有意差
	左横立	右横立		
積極的	1,24 (0,44)	1,86 (0,88)	3,549	p<0,01
内向的	3,24 (0,91)	2,14 (0,92)	5,350	p<0,01
統制的	1,86 (0,83)	1,83 (0,85)	0,16	ns
外向的	1,21 (0,41)	1,93 (0,96)	4,650	p<0,01
男性的	1,21 (0,41)	1,93 (0,92)	5,209	p<0,01
母性的	1,93 (0,92)	1,55 (0,83)	1,944	p<0,10
未来的	1,31 (0,54)	1,97 (0,94)	4,580	p<0,01
父性的	1,17 (0,38)	1,52 (0,87)	2,066	p<0,05
受動的	2,14 (1,09)	1,69 (0,76)	2,036	p<0,10
過去の	2,41 (1,15)	1,72 (0,80)	2,961	p<0,01
受容的	2,00 (1,04)	1,55 (0,74)	1,939	p<0,10
女性的	2,03 (1,15)	1,72 (0,80)	1,360	ns

表 3 : 樹木画 3 における左右横立樹木の特徴比較

SD 項目	平均値(標準偏差)		t 値	有意差
	左横立	右横立		
積極的	2,03 (0,91)	2,83 (0,93)	3,945	p<0,01
内向的	1,86 (0,83)	1,45 (0,83)	2,275	p<0,05
統制的	2,00 (0,93)	2,21 (1,08)	0,950	ns
外向的	2,03 (1,02)	3,00 (0,93)	4,411	p<0,01
男性的	2,03 (1,09)	2,07 (1,03)	0,014	ns
母性的	1,79 (1,05)	2,72 (1,13)	3,042	p<0,01
未来的	2,03 (1,09)	2,97 (0,94)	3,487	p<0,01
父性的	1,52 (0,87)	1,83 (0,89)	1,606	ns
受動的	1,76 (0,95)	2,03 (0,98)	1,278	ns
過去の	1,57 (0,68)	1,21 (0,62)	2,256	p<0,05
受容的	2,38 (0,94)	1,76 (0,91)	3,833	p<0,01
女性的	1,76 (0,95)	2,79 (1,05)	3,124	p<0,01

表 4 : 樹木画 4 における左右横立樹木の特徴比較

SD 項目	平均値(標準偏差)		t 値	有意差
	左横立	右横立		
積極的	1,10 (0,30)	3,10 (0,82)	12,739	p<0,01
内向的	3,24 (0,95)	1,38 (0,56)	8,425	p<0,01
統制的	1,55 (0,91)	2,55 (0,91)	4,292	p<0,01
外向的	1,07 (0,37)	3,03 (1,02)	8,738	p<0,01
男性的	1,41 (0,73)	2,86 (0,95)	5,363	p<0,01
母性的	1,48 (0,83)	2,72 (0,96)	4,309	p<0,01
未来的	1,10 (0,30)	2,97 (1,09)	12,581	p<0,01
父性的	1,38 (0,82)	2,72 (0,92)	5,193	p<0,01
受動的	2,10 (1,05)	1,86 (0,83)	0,836	ns
過去の	3,00 (1,16)	1,17 (0,47)	7,225	p<0,01
受容的	1,86 (0,95)	2,52 (1,90)	6,121	p<0,01
女性的	1,62 (0,86)	2,45 (1,12)	2,637	p<0,05

表 5 : 樹木画 5 における左右横立樹木の特徴比較

SD 項目	平均値(標準偏差)		t 値	有意差
	左横立	右横立		
積極的	3,41 (0,82)	1,90 (0,77)	8,619	p<0,01
内向的	1,28 (0,70)	2,21 (0,90)	4,310	p<0,01
統制的	2,48 (1,15)	1,90 (0,86)	2,100	p<0,05
外向的	3,38 (0,82)	1,90 (0,86)	7,805	p<0,01
男性的	3,69 (0,60)	1,79 (0,98)	9,778	p<0,01
母性的	1,55 (0,95)	2,45 (0,99)	3,738	p<0,01
未来的	2,17 (1,20)	2,17 (0,93)	0	ns
父性的	3,24 (0,91)	1,55 (0,69)	9,389	p<0,01
受動的	1,55 (0,83)	2,07 (0,88)	2,638	p<0,05
過去の	1,79 (1,18)	1,90 (0,94)	0,364	ns
受容的	1,62 (0,94)	2,31 (0,89)	2,899	p<0,01
女性的	1,35 (0,77)	2,31 (0,81)	4,954	p<0,01

横立樹木画が、右横立樹木画より特徴的であったのは、内向的、母性的、受動的、過去の、受容的の5つであった。そのうち、t検定の結果、内向的、過去のが1%水準で有意、母性的、受動的、受容的が10%水準の有意傾向であった。それに対して、右横立樹木画が左横立樹木画より特徴的であったのは、積極的、外向的、男性的、未来的、父性的の5つであった。そのうち、t検定の結果、父性的が5%水準であった他は、すべて1%水準の有意差であった。

表2の結果では、左右横立樹木画の特徴と空間象徴論で主張する左右空間の特徴が一致した。ただ、右特徴と考えられた統制的と、左特徴的だと見なされた女性的の2つにおいては有意差が認められていない。

表3は、樹木画3における左右横立樹木画の特徴を比較したものである。それによると、左横立樹木画が、右横立樹木画より特徴的であったのは、内向的、過去の、受容的の3つであった。そのうち、t検定の結果では受容的が1%水準、内向的と過去のが5%水準で有意差が認められた。それに対して、右横立樹木画が、左横立樹木画より特徴的であったのは、積極的、外向的、母性的、未来的、女性的の5つであった。この5つはt検定の結果においてすべて1%水準で有意差が認められた。

表3の結果では、左横立樹木画の特徴は空間象徴論の左空間の特徴と一致した。一方、右横立樹木画の特徴は、空間象徴論でいう左右両空間の特徴が混在している。すなわち、母性的と女性的は左空間の特徴であり、積極的、外向的、未来的は右空間の特徴である。

表4は、樹木画4において左右横立樹木画の特徴を比較したものである。それによると、左横立樹木画が右横立樹木画より特徴的であったのは、内向的、過去のの2にとどまった。t検定の結果、いずれも1%水準で有意であった。

それに対して、右横立樹木画が左横立樹木画よりも特徴的であったのは、積極的、統制的、外向的、男性的、母性的、未来的、父性的、受容的、女性的の9つにも及んだ。t検定検定では、女性的が5%水準であった他はすべて1%水準で有意であった。

表4の結果では、左横立樹木画の特徴は、空間象徴論でいう特徴と一致した。一方、右横立樹木画の特徴は空間象徴でいう左右の特徴が混在していた。すなわち、母性的、受容的、女性的は空間象徴論では左空間の特徴であり、積極的、統制的、外向的、男性的、未来的、父性的は右空間の特徴である。

表5は、樹木画5において左右横立樹木画の特徴を比較したものである。それによると、左横立樹木画が右横立樹木画よりも特徴的であったのは、積極的、統制的、外向的、男性的、父性的の5つであった。そのうち、t検定の結果では、統制的が5%水準である他はすべて1%水準で有意であった。それに対して、右横立樹木画が左横立樹木画よりも特徴的であったのは内向的、母性的、受動的、受容的、女性的の5つであった。そのうち、t検定の結果は、受動的が5%水準である他はすべて1%水準で有意であった。

表5の結果は、これまでの表1から表4までのものとは正反対であった。すなわち、左横立樹木画の特徴として示された、積極的、統制的、外向的、男性的、父性的は、空間象徴論ではすべて右空間の特徴である。一方、右横立樹木画の特徴としての内向的、母性的、受動的、受容的、女性的は、空間象徴論ではすべて左空間の特徴である。

## 5. 考 察

20枚の中からもなるべくバラエティに富むような形で任意に選ばれた5枚の横立樹木画を用い

て、空間象徴論の主張する左右空間の特徴と左右二本に伸びた樹木（善い木と悪い木）の特徴とどのように関連するかをみてきた。ここで、表1から表5までの結果を包括的に検討してみよう。

- (1) 空間象徴論の主張する特徴群のなかで、「過去の」（左空間）と「未来的」（右空間）という時間的特徴は、描かれた樹木の特徴にほとんど左右されない。

5枚の樹木画において、最後の樹木画（この絵では左右差が認められなかった）を除いて他の4枚の樹木画では左空間が過去のであり、右空間が未来的とされた。したがって、時間は、空間的には一貫して左に過去を、右に未来を指定し、逆にはなりにくいことを示している。

- (2) その他の「積極的—受動的」、「外向的—内向的」、「男性的—女性的」、「母性的—父性的」、「統制的—受容的」などの左右空間の特徴は、左右に描かれた絵の内容に影響されて、どちらでも左右の特徴となり得る。

たとえば、描かれた樹木の樹冠の形において円形か三角形かによって女性的か男性的かになり、それが左右どちらの絵に現れるかが決定的である。樹木画2において三角形の樹冠が右に、円形の樹冠が左に、一方、樹木画4において樹冠なしが左に円形の樹冠が右にえがかれているので、樹木画2では、左が女性的であるのにたして、樹木画4では、右が女性的な特徴をおびることになる。したがって、これら多くの特徴は、左や右の空間に固有の特徴というより、描かれた樹木の内容に規定されると考えられる。このことは善い木と悪い木の二本の樹木画から倫理・道徳的側面を把握するのに、左右横

立樹木画を利用するのに意味がでてくる。というのは、善悪などの価値判断は、視点や立場がかわれば正反対になるのであって、そういう点では容易に互いに交替可能な左右空間を利用するのは適当であろう。

- (3) 円枘法を採用したのは、健常な大学生には不必要であった。

中井（1995）の研究では、風景構成法などで円枘法を使用した方が、内面を出し難かった統合失調症の人が、安心して自己表現した。しかし、今回のように健常な大学生の場合、円枘はかえって描画空間を窮屈にしてしまったようだ。描画中にそのような感想をもらった学生が現にみられた。

- (4) 教示法として善い木と悪い木を描いて下さいというのは、心理的抵抗をもつひともいるかもしれない。だから、左に伸びる木と右に伸びる木をそれぞれ描いて下さいという教示法も考えられる。この場合は、確かに抵抗は少なくなるであろう。しかし、これによって倫理・道徳面の理解に寄与する情報がえられるかどうかはわからない。この教示法でいかなる横立樹木画が収集され、そこからどのような情報がえられるかは、それだけでも研究の価値があるかもしれない。

- (5) つぎの研究課題は、一本の樹木画を描くという伝統的な方法を守るとすれば、左横立樹木画と右横立樹木画とを一枚ずつ別々に描く方法があるが、この方法と、今回行った方法のメリットとデメリットをまず明確にしなければならない。

## 6. 文 献

1. 中園正身(1996)「一変法としての樹木画

法の研究—根を強調した教示法の導入について—」心理臨床学研究 Vol.14 No.2 日本心理臨床学会

2. 中園正身(2000)「樹木画法の研究—樹木心理学の視点から—」文教大学臨床相談研究所紀要 第4号
3. 中園正身(2001)「樹木画の解釈論について—樹木心理学の視点から—」文教大学人間科学部紀要 第22号
4. 中園正身(2002)「樹木画法の研究(III)」文教大学人間科学部紀要 第23号
5. 中園正身(2003a)「樹木画法の研究(IV)」駒沢女子大学研究紀要 第9号
6. 中園正身(2003b)「樹木画法の研究(V)」日本心理臨床学会発表論文集
7. 中井久夫(1974)「棒づけ法覚書」芸術療法 5